

# 香川大学教育学部 附属教育実践総合センターニュース

No. 2 1

平成17年3月31日発行

## 目 次

特集 第5回学部・附属学校園教員 合同研究集会報告 ---- 1	センター協議会報告 ----- 7
公開講演会実施報告 ----- 3	寄贈図書 ----- 8
初等教育研究発表会報告 ----- 6	活動報告・お知らせ ----- 8
	退任のご挨拶 ----- 9

## 特 集 第5回 学部・附属学校園教員合同研究集会報告

はじめに

教育実践総合センター長 湯浅恭正

第5回の学部附属合同研究集会では、主に各教科ごとの分科会を設けて意見交流を行った。その中心は共通の土俵である「教育実習」であったが、その土台にある学部のカリキュラムの紹介や附属の側からの教員養成教育への意見を互いに交流することにあつた。平成10年の学部改組とそれに伴うカリキュラムの改革から7年が経過し、その総括を見据えた合同研究集会となった。今回は幼児教育を除けば各教科に限定したが、道徳や生活科、総合的学習、さらには教科外の諸活動についての交流が今後に期待される。また、学部の「中期目標」に掲げられてきた「学部附属共同研究機構の設置」に向けた議論も進展させたいものである。なお、5回という一つの区切りをつけた資料の合冊刊行を予定している。

(第5回学部附属合同研究集会実行委員会)

教員養成（教育実習）をめぐる学部附属の連携 ―理科分科会のまとめと感想―

理科教育講座 金子之史

理科分科会は大学教員9名、大学教務職員3名、附属副校長・教諭12名の計24名でおこなった。はじめに大学側から川勝先生が現在の理科専攻学生のカリキュラムの特徴や授業内容を述べた。また、附属側から上村先生が教育実習の現状と課題および課題解決のための今後の連携について述べた。その後の自由な議論で出てきた論点は2つであった。

第1の「現在の学生の状況について」は、①教師になる以前の学力不足、②専門性に対する心構えの不足、③学生は学びの姿勢ややる気はあるが自学自習の困難



さがある、④学校教員養成課程では教員免許状が必須であり、教師志望をあきらめ教育実習にいやいや参加する学生もいること、等が問題となった。例えば、①では大学と附属の双方から電球と電池を用いた回路に関する理解不足や実際におこなえないという指摘があった。全体として学生を見れば、教師になろうとするモチベーションやアイデンティティはある。しかし、学生はそれを「教師の専門性とは何か」という問いかけに繋がられないということが考えられよう。なお、この「教師の専門性」は小学校と中学校の間あるいは個々の先生方の間で必ずしも同じではないが、すくなくとも中学校では「教師の専門性」=教科が重要であると思われた。

第2の「今後の連携への提案」では、大学1年次における「学校教育入門」を改変し、もっと教科担任や学級担任との関係をもつてもよいのではないかと。第2年次の後期に附属の小学校や中学校の現場に入り込むことはできないか、放課後でも良い。第3年次では教育実習後の第4年次にかけての学生と現場との関係づくりを続けられないか。総じて、教員養成の教師教育は専門教育との触れ合いの中で、たんに専門領域の内容だけではなく人間性も含めて学ぶことができるのではないかと。学部の教員、附属の教諭、および先輩・後輩の関係づくりが大切ではないかと。また、カリキュラムや入試制度全体の見直しも含めた教育実習のあり方が問われたと思われる。



## 第5回 学部・附属学校園教員合同研究集会、幼児教育分科会の報告

幼児教育講座 鈴木政勝

学部・附属学校園教員合同研究集会、幼児教育分科会では、学部から3名、附属幼稚園(同高松園舎を含む)から7名、附属養護学校から6名の教員が参加し、「教育実習を巡る学部・附属の連携」という統一テーマのもとに話し合いを行いました。以下、その内容について、幼児教育コースの教員という立場から――既に全体会でも報告していますので重複することになりますが――まとめ、二つの点に絞って報告したいと思います。

一つは、教育実習における学生の研究保育に関して、学部教員がこれまで以上に参加し、附属の教員とともに指導することはできないか、ということについてです。学部教員は、何人かの学生の研究保育を観察するだけで終わっているのが現状です。附属養護学校の方から、学生の研究授業をビデオにとり、その後大学で、学部教員、附属教員を交えて研究授業の反省的検討を行っているということが紹介されました。幼児教育コースは、この時期保育実習(二年生対象)もあり、学部教員は保育所・施設への巡回指導も行わなければならないと時間的に難しい所もありますが、養護学校での先進的な試みを参考にして、研究保育への参加、指導を検討していかなければならないと感じました。

二つ。学生の中には、「さらにより深い保育実践力を身につけたい」「幼児や保育についてより深く理解しそれを卒業論文としてまとめたい」と教育実習後も附属幼稚園への観察や参加を希望する学生がおり、ずっと以前から、附属幼稚園は、こうした学生を受け入れてきてくれました。現在は、教育実習後こうした目的をもって週1回(あるいは週二回)一年間(あるいは1年半)附属幼稚園に通う学生は、幼児教育コースのほぼ全員となっています。附属幼稚園の教員の中には、こうした学生による幼児理解や保育に関する記録を読み、指導してくれる教員がおります。学生が実習後も附属幼稚園に通い、継続的に幼児を観察すること、保育に参加すること、さらに指導をしていただけるということは、学生の保育実践力を大きく伸ばすものとなっています。今後、こうした形の連携をさらに充実させていきたいと考えます。

## 学生の〈大人イメージ〉の解体と再構築をめざして

体育教育講座 野崎武司

教育学部に着任して十数年が経ちます。そのほとんどを自らの専門の研究と授業、卒論指導に費やしてきました。たまに教育実習参観に行き、上手な学生を見ると「さすが体育の学生！」と誇りに思い、学部でとびきり真面目なのに実習で全く輝けない学生に出会うとただ唖然とするばかりでした。これじゃいかんと、実践的指導にも手を付けはじめましたが、全くうまくいかない。思考の幼いタイプの学生は、いろんなことができないくせに、プライドだけは高い。目上の人から学ぼうという意欲が低く、少し鋭い指摘を受けるとすーっと身を引いて、交流不能に陥る。そんなことを繰り返しながら、今年は教材づくりを柱とした授業を立てました。「子どもたちとの関わりは経験をつめば磨かれるよ！今は入念に授業を準備して子どもたちをあとと言わせよう」。しばらくはこんな授業づくりを磨きながら学生たちと関わっていきたいと思います。

今時の学生に感じるのは、大人になることへの貧困なイメージです。年収へのこだわりや「おいしい仕事」、「そこそこ適当に」といった軽い気分。卒業生（先輩）からは「社会人になったら大変！今の内遊べ！」としか言われぬ。決して能力が低いわけではないのに情熱を感じない。そんな学生たちに、少しでも豊かな教職のイメージを抱かせて、教育実習に送り込めるように、最大の努力を払いたいと思います。

## 平成16年度 第3回公開講演会 報告

日 時	平成18年1月31日（月）15：30～17：30
場 所	香川大学研究交流棟 5階
講 師	岐阜大学教育学部教授 石川英志先生 岐阜県総合教育センター研修管理課課長補佐 宮島康広先生
テーマ	「岐阜県教育委員会と岐阜大学教育学部の連携協力にもとづく教員研修の構想と展開」

湯浅教育実践総合センター長の挨拶の後、最初に、宮島氏より岐阜県教育委員会が岐阜大学教育学部と連携して教員研修を実施するに至った経緯についてのお話があった。ここでは、国や他県の動向（平成11年の「教員養成審議会答申」等）を踏まえ、岐阜県がどのような取り組みを行ってきたかの説明に続き、平成13年度の「6年目研修」の一部を岐阜大学の協力の下実施したことを皮切りに、法制化された「10年経験者研修」の中の5日間を岐阜大学研修として共同で企画実施した旨の説明があった。

続いて、石川氏より岐阜大学側から、岐阜県教育委員会の要請をどのように受け止め、平成15年度、16年度に具体的にどのように研修を実施していったかについてのお話があった。ここでは、教員研修の再構築の契機として、また、教育学部像を変えていく契機として、10年研修を積極的に位置づけ、教育委員会との間で活発な議論を展開して、教育学研究科を構成する教員すべてが研修のためのコースを立ち上げるに至った実情が語られた。

講演後の協議では、このような研修を実施することができた条件や今後の課題について、活発な質疑応答が行われた。香川大学教育学部も香川県教育委員会との連携の一環として、平成17年度から10年研の一部を香川大学研修として実施することを計画している。その取り組みにあたって、大学側と教育委員会側のそれぞれにどのような課題がありそれをどのように克服していくのかということについても大きな示唆を与えてもらった講演であった。

(文責 田上 哲)

## 平成16年度 第4回公開講演会 報告

2005年2月18日（金）に、香川県教育会館ミュージズホールにて、公開講演会（香川県教育センター研究発表会）が開催された。公開講演会では、香川大学と香川県教育センターの共同研究「不登校への対応における学校と教育支援センター（適応指導教室）の望ましい連携の在り方」の成果が発表されるとともに、大阪樟蔭女子大学人間科学部教授・大阪市立大学名誉教授森田洋司先生による講演会「現代社会の問題行動への対応の在り方－不登校や非行に、今、なぜ行動連携か－」が行われた。

当日は、現職教員や大学院生、学部学生ら200名以上の参加があり、盛況であった。まず、加野芳正教育学部長より挨拶があり、香川大学と香川県教育センターとが2ヶ年にわたって連携し研究が行われたことの意義が確認された。

次に、共同研究の成果発表として、まず川上彩先生が本年度の研究のねらい及び不登校児を支援するチームの編制について話をした。そして、岡みゆき先生が事例検討会の持ち方と効用について、内山宜子先生が「個人カード」（不登校児を理解し支援するための個人記録票）について発表を行った。最後に、七條正典先生が共同研究の総合的考察とまとめをした。

それから休憩をはさんで、森田先生の講演会が行われた。講演では、現代社会の動向としての「私事化」及び「ソーシャル・ボンド」がとりあげられ、子ども個人にとって学校がどういう意味を持つのかを問いながら、「ソーシャル・ボンド」（「人と人、人と場を繋ぐ糸であり、私事化社会では個人から投げかける意味づけの糸の束」）を形成していかなければならないと語られた。また、関係諸機関間の連携及び校内連携について、いくつものポイントをあげて具体的に説明がなされた。例えば、「不可欠な継続的な相互作用」、「柔軟な目標設定と目標の明確化と共有化と指導計画の作成」、「リンケージ役割（連携調整役“コーディネーター”）の決定」、「成果の配分とメンバーの動機づけの担保、we-feelingの醸成」などがあげられた。

共同研究の成果発表の中でも校内連携、学校と教育支援センターとの連携について発表がなされており、森田先生の講演とあいまって、いかに連携し、いかに連携を維持していくのかについて本講演会は大変有意義な機会になったと思われる。

なお、共同研究の成果として、2冊の報告書、特集原稿（2004、香川大学教育実践総合研究）が刊行されており、平成17年2月発行の香川県教育委員会のパンフレットには関係諸機関との連携の持ち方や「個人カード」がとりあげられている。また、一部の地域では、継続的に「個人カード」が活用されている。

（文責：宮前義和）

## 平成16年度 第5回公開講演会 報告

今年度第5回目の公開講演会を、講師に浅野誠氏（元中京大学教授・沖縄大学客員教授）を迎え、3月3日に香川大学研究交流棟5階を会場として、下記の2つのテーマ・内容で実施した。

## ○テーマ1：「授業評価から授業改善の具体化へー大学の授業を変えるー」

まず午前（10時から12時）に研究開発委員会との共催で主に教育学部教員を対象として標記テーマで講演会を行った。最初に、本大学「学生による授業評価」プロジェクト委員会の島田氏より、本学の「学生による授業評価」をめぐった報告がなされた。その後、標記のテーマで、浅野氏より講演いただいた。最初に、自己紹介を交えて事前に送付していた香川大学の平成15年度『学生による授業評価報告書』に基づいたコメントをいただいた。続いて参加者による活動を間に挟みながら、提案1「授業評価を具体的な改善課題と結びつける」、提案2「一方向講義から学生自身が知的探求をする授業へ」、提案3「学生相互の教育力・取り組みへの注目を」、提案4「討論・共同作業を多分にふくみこむ」がなされ、最後にポスター討論の形式の活動を通して大学における授業づくりを考えた。

## ○テーマ2：「生き方創造と教育実践の課題」

午後（14時から17時）からは、一般の参観者を対象として標記テーマで、ワークショップ型の講座を行った。ワークショップ第一部「人生創造を考える」では、まず参加者による自己紹介（自分を身体の一部に例えて）、肩たたき討論（20年後の自分の労働時間）、グループ・全体討論（10年後に一番起こりそうなこと）、列討論（子どもにとって「標準・平均」「独創的」どちらが大事か）を行った。第二部では、授業・総合的な学習の時間・特別活動などで「生き方創造」の取り組みを設定することを想定して、テーマ・やり方・工夫点を参加者で出し合い、それをもとに参加者一人一人がポスターを作成し発表し合った。

浅野氏は、現在フリーの研究者として沖縄にお住まいになり、生活指導、大学教育、授業・ワークショップ、グローバル教育、沖縄教育に関する執筆や全国各地での講演・ワークショップを実施されている。今回の講演会は、これまでの講演会と異なり、ワークショップ形式の参加型の講座を実施いただいた。参加者からは「座って聞くだけでなく参加型で、楽しく身についた」という意見をいただき、大変好評であった。（文責 田上 哲）



**平成16年度 香川大学教育学部附属高松小学校  
初等教育研究発表会（2月3日、4日開催）報告**

＜文部科学省研究開発学校指定3年次＞ 21世紀に生きる人間づくりの教育

－基礎・基本の確かな習得とかけがえのない個性を最大限に生かし能力を伸ばす学びの創造－

本年度の参加者も2000人を超えました。ご指導の先生方、保護者の方をはじめ関係の方々のおかげをもちまして盛会となりました。

「主役である子どもたちの姿から本校の研究をみてもらおう」というコンセプトで臨み、学習時間だけでなく、登校、あいさつ、ランチルーム給食、わんぱくの時間など、学校生活全般にわたり子どもたちの姿を多方面から見ていただきました。参加者のアンケートを見ても、子どもたちが自分を発揮する姿を好意的に受け止めてくれていました。そして、子どもたちの姿に本校の研究を見出してくださったことが大きな成果でした。



ランチルームでの縦割り給食

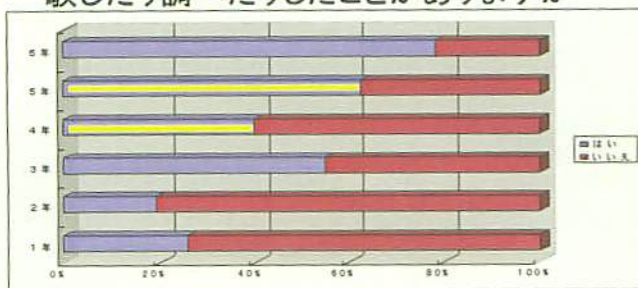


1年生と園児が遊ぶ様子

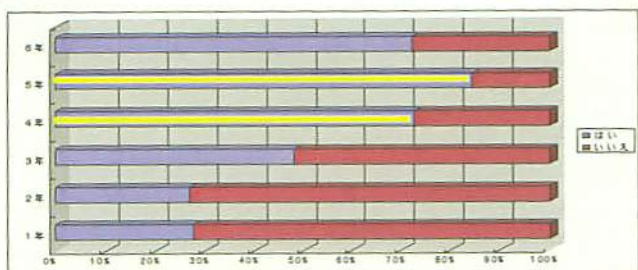
**楷の木活動で調べていることを家庭や図書館で体験したり調べたりしたことがありますか**

また、本年度は研究開発の最終年次で、研究の成果をデータをもとにして発信しました。このデータからは、低学年も含めて、全学年を通じて、積極的に自ら追究活動を行おうとしていることが読み取れます。

他にも保護者、教員、縦割り活動、楷の木活動、教科学習のつまずきなど、多様な角度からカリキュラム評価しました。



平成15年度



平成16年度

## 第66回 国立大学教育実践研究関連センター協議会 報告

下記の要領で、東京学芸大学で標記協議会の総会と部門研究会が行われ、本センターから湯浅センター長と松下教官、七條教官、宮前教官、田上の4名の専任教員が参加した。

日時：平成17年 2月15日(火)

**総会 (10:00 — 13:00)** 会場：東京学芸大学総合メディア教育館

総会では以下のように報告と予算の審議と全体討論が行われた。

- ・2004年度アジア・太平洋教育工学東京セミナー/ワークショップ(APEID)報告
- ・IT教育支援協議会報告 南部昌敏副会長(上越教育大学)
- ・各研究部門(教育臨床部門/教育実践・教師教育部門/教育工学・情報教育部門)報告
- ・平成17年度予算案並びに平成16年度会計中間報告(事務局)
- ・「教育実践研究関連センター協議会の再構築に向けて」提起 近藤勲会長(岡山大学)
- ・センター協議会の運営に関するアンケートの集計報告
- ・各センターの実情と今後の対応について議論

**部門研究会 (14:00 — 18:00)**

午後からは下記の3つの部門に分かれて研究会が行われた。

○**教育臨床部門** (会場：教育実践研究支援センター3階会議室)

1. 各センターの本年度の取り組み 司会 中野明徳(福島大学)
2. 不登校研究会報告 司会 小野昌彦(奈良教育大学)
3. 教師教育コンテンツ開発(臨床編)報告 司会 松井賢二(新潟大学)

○**教育実践・教師教育部門** (会場：合同棟 大教室)

1. NIMEとの協働で作成中の教師教育部門のビデオ教材についての報告  
澤実(鳴門教育大学)・姫野完治(秋田大学)
2. 教育実習における評価について  
鳴門教育大学における教育実習の評価について報告 梅澤実(鳴門教育大学)  
各大学の事例報告と改善への議論
3. 教育実習に関する諸問題(各大学の教育実習に関する評価基準等)について討議

○**教育工学・情報教育部門** (会場：総合メディア教育館)

1. メディア教育開発センター共同教材開発プロジェクト「教師教育コンテンツの開発」の進捗情報の報告と討議
2. LMSを活用した教材開発プロジェクト「学校における情報メディア活用アイデア集」のコンテンツ開発についての進捗状況と討議
3. 実践センターの中期計画・中期目標に関する情報の共有化プロジェクトについて

総会では、次期会長に南部昌敏(上越教育大学)現副会長を選出した。また、今回の第66回国立大学教育実践研究関連センター協議会は平成17年9月に香川大学で開催されることが発表された。

(文責 田上 哲)

**寄贈図書(05/01~05/03)**

ネットワーク 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター  
第9回秋田大学教育実践セミナー-学ぶ力を育てる情報教育のすすめ-  
秋田大学教育文化学部附属教育実践総合センター  
第8回秋田大学教育実践セミナー-メディアが変わる学びが変わる-  
秋田大学教育文化学部附属教育実践総合センター  
教育実践研究紀要 第26号 秋田大学教育文化学部附属教育実践総合センター  
教育実践研究紀要 第14巻 鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター  
メディア教育研究01 独立行政法人 メディア教育開発センター  
富山大学教育実践総合センター紀要第5号 富山大学教育学部附属教育実践総合センター

**【センター活動報告(05/01~05/03)】**

1月25日(火) 第14回学力評価に関する研究プロジェクト  
1月25日(火) 第12回学校評価に関する研究プロジェクト  
1月26日(水) 第7回専任会議  
1月26日(水) 編集小委員会  
1月31日(月) 第3回公開講演会  
2月15日(火) センター協議会  
2月18日(金) 第4回公開講演会  
2月23日(水) 企画推進委員会  
2月24日(木) 第5回学部・附属学校園教員合同研究集会  
3月3日(木) 第5回公開講演会  
3月11日(金) 管理委員会

**【センターからのお知らせ】**

**教育実践総合研究第11号原稿募集**

『香川大学教育実践総合研究』第11号は、5月31日(火)原稿受付締切です。奮ってご投稿されるのをお待ちしております。

なお、投稿予定者は、予めセンター事務室までお申し込みください。

**センター貸し出し物品について**

センターではこれまでの備品に加え、以下の物品の貸し出しをしています。ご用の方はセンター事務室までご連絡ください。

デジタルビデオカメラ SONY HANDYCAM DCR-PC350  
デジタルカメラ CANON IXY DIGITAL PC1108  
DVDレコーダー SONY すご録 RDR-HX8  
小型スクリーン



## 香川大学教育VODサービスのご案内

本サービスは、香川大学教育学部附属教育実践総合センターが学校における教育実践上のヒント（手がかり）となるコンテンツ（内容）をVOD（ビデオ・オン・デマンド）の形式で Web 上で公開し、地域の諸学校や先生方をはじめ、広く利用していただくとする事業です。

香川大学教育学部附属学校園の先生方から提供された内容を中心に、幼稚園、小学校、中学校、養護学校、学校全般の教育実践に関わるヒントをコンパクトにまとめた 34 のコンテンツが現在公開中です。

例えば、最近アップされたコンテンツには次のようなものがあります。

### コンテンツ（新着順）

- 34.保健室における健康教育
- 33.紅白梅図屏風の鑑賞－プレゼンテーションソフトによる美術鑑賞教材－
- 32.求められているエネルギー学習
- 31.学校支援ボランティアの活用と課題について
- 30.「思考力」を育む少人数指導を通じた理科学習
- 29.学校の自己評価を見直そう

本サービスは、香川大学教育学部附属教育実践センターHP（URL <http://edu-center.ed.kagawa-u.ac.jp/~j-cen/>）のメニューから利用できるようになっています。

## 退任のご挨拶

「この1年間を振り返って」

香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事 小柳 和代

今年一年間、客員助教授として教育実践集中講座で大学生の皆さんと一緒に勉強できる機会を得られたことにとっても感謝をしています。最初お話をいただいた時には、戸惑いもありましたが、毎回参加してくださる皆さんの教職に対する熱意や前向きな姿勢に触れるたび、「次回はどんな課題を提示しようか?」「どんな演習が効果的か?」と、今から思えば自分自身の研修になったような気がします。

また一方では、学校現場、教育問題について新聞記事や学校を背景としたテレビ番組を見るにつけ、教職の道に進むことへの不安や疑問を抱えることもあろう学生さんが、少しでも教職という仕事の面白さや、やりがいを肌で感じてくれたら・・・という一心で毎回授業を組み立ててきました。

これからも、この集中講座を通して、現場の教員と香川大学の学生さんが教育について熱く話れる機会を継続していただけたらと思います。

## 退任のご挨拶

センター長退任にあたって

湯浅恭正

この度2期4年の任期を終え、教育実践総合センター長を退任することになりました。センター所属の教員・職員の方はもとより、企画推進委員の先生をはじめ学部・附属の多くの先生方・職員の方にご支援・ご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

「教員養成大学・学部の再編・統合」から「教員養成定員の規制緩和・増」という変化の大きい4か年でありました。この4年間、教員養成のコア・カリキュラム作成やフレンドシップ事業の実施など教師教育にかかわる各種の取り組みを進めてきましたが、こうした成果をどう評価し、生かしていくかが問われています。専門職大学院構想など、教員養成への新しい提起が次々と示されている状況ですが、これまで地道に創造してきた研究と実践の成果を正当に評価することがまず必要ではないでしょうか。本センターのみならず全国のセンター等の研究と実践の蓄積は膨大なものです。これらの成果から何が今の時代の課題かを総括し、展望する努力がどれだけされてきたのでしょうか。「特色ある取り組み」は単に競う対象で終わるのではなく、共同の知として関係者に共有され、学生たちに還元していくべきものでありましょう。

教員免許法の改革に反して教師の指導力低下が指摘されるという矛盾などを見るとき、制度改革の行方を正確に見据えつつ、それに振り回されることなく足下からの改革を進めることの大切さを感じた4か年でありました。総合的学習などの行方についても調査研究に取り組んでまいりましたが、文教政策の急激で、かつ無責任な揺れに、これまた大きく振り回されることも予想されます。国の財政事情に否応なく左右されざるをえない文教政策ですが、全国のセンターや共通したテーマを持つセンターと共通した政策提言など、先を展望する事業の展開を期待したいと思います。

香川県教育センターとの連携や客員教員・研究員の積極的な活用など地域との連携も意識的に進めてきました。情報教育をはじめ、特別支援教育・不登校・学力評価・学校評価など連携の推進によって実践的研究が深められたように思います。今後は連携の質を深め、共同の研究活動がさらに進展するよう期待しております。

なお、退任とともに香川大学から転出することとなりました。運営委員の時代を含めてセンターの事業には長らく参加させていただきました。専門の異なる多くの先生方と交流させていただき、そのことによって研究の視野を広げ、教師教育に必要な視点を学ぶことができました。ありがとうございました。

教師が育つことが難しいといわれる今日、教師の自立や学校の存在など、まさに総合的に教育実践・教育臨床のあり方を追究する教育学部のセンターとして研究部門の拡大等、質量ともにますます発展されることを期待しております。地域の教師教育の拠点として、また全国に研究と実践を発信する拠点として、今進められている教育学部の改革が実りますように心から祈念いたします。



香川大学教育学部附属教育実践総合センターニュース

No. 2 1

発行日：平成17年3月31日

編集発行：香川大学教育学部附属教育実践総合センター

代表者 湯浅 恭正

URL <http://edu-center.ed.kagawa-u.ac.jp/> E-mail : [jcen@ed.kagawa-u.ac.jp](mailto:jcen@ed.kagawa-u.ac.jp)

[ 〒760-8522 高松市幸町1-1 Tel. 087-832-1683 Fax. 087-832-1689 ]